

451 埼玉県長瀬町周辺の微小変形

西田高久(県立白岡高)・西川正己(県立坂戸西高)・

荒井 豊(東松山市立北中)・矢島敏彦(埼玉大学教育)

変成岩地域の小露頭規模の観察においては堆積時の構造、変成作用時の変形などの古期変形に、新期の各種変形が重なり合っているが、調査範囲がひろがるに従って、これらの変形運動の前後関係が識別できるようになる。ここでは荒川河床の上長瀬・虎岩付近、親鼻橋付近、高砂橋付近の3地点における空撮写真及び平板測量結果について報告する。

例えば、虎岩付近ではENE—WSW系とそれを切るN—S系の2つが垂直成分の変位の大きい高角度断層として顕著である。

いずれも最新期のOpen faultであり地質図上では省略される規模のものであるが荒川の東流北流にそれぞれ対応し、かつ地形に密接な関係をもつ。

また、古期活動に由来するNNW—SSE系やNNE—SSW系などの小断層群があり、echelon Quartz veinやkink bandの形成に重要な役割をもつ。

